

岡崎市議会議長 様

支出番号	2
------	---

会派名 自民清風会
代表者名 磯部 亮次

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和7年3月31日提出

活動年月日	令和7年2月4日（火）～6日（木）		
氏名	田口正夫		
用務先 及び 内 容	1 2月4日	用務先	岐阜県 高山市
		内 容	歴史的風致維持向上計画について
	2 2月5日	用務先	長野県 長野市
		内 容	鳥獣被害対策とジビエ加工センターについて
	3 2月6日	用務先	石川県 小松市
		内 容	小松運動公園について
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和7年2月4日（火曜日）
視 察 内 容	歴史的風致維持向上計画について（岐阜県 高山市）
視 察 者	田口正夫

（円 川） 高山には、市内を流れる宮川や川上川などによって形成された沖積世の平地や、河岸段丘 に面した山麓の緩斜面、扇状地などに、縄文・弥生・古墳の各時代の遺跡が多数存在します。それは古くから人々がこの地に住みつき、豊かな自然の恵みを受けつつ暮らしてきたあかしです。飛騨地方が大和朝廷へ服属したのは諸説様々ですが、5 世紀以降のことと思われます。奈良時代の国府は高山盆地にあり、国分寺（総和町）と国分尼寺（辻ヶ森三社）が建てられました。天平勝宝元年（749）大野郡大領正七位下飛騨国造高市麻呂（ひだのこくぞうたけちまろ）が国分 寺へ知識物を献じて外従五位下を賜ったとあり（続日本紀）、国分寺と大野郡の名が初見されます。養老賦役令に「凡ソ斐陀国ハ調庸俱ニ免ゼヨ。里ゴトニ匠丁（木工）十人ヲ点ゼヨ。…」と あり、飛騨国は、匠丁を出すことによって庸調が免ぜられていました。それは「今昔物語集」での 飛騨匠と絵師百済川成との腕比べの話や、「万葉集」に詠まれた「かにかくに物は思はじ飛騨人 の打つ墨縄のただ一道に」のように、黙々と働く「ひだびと」の姿を通して今に伝えられています。「高山」の地名は、永正年間（1504～21）に守護代多賀氏の一族高山外記が、現在の城山に 城砦を築いた頃にさかのぼります。城内に近江の多賀天神を祀り、天神山・多賀山と称したこと に由来するともいわれています。後に京極氏の被官で、守護代多賀氏を祖とするとも伝える三木氏が益田郡に勢力を伸ばし、大永の頃（1521～28）大野郡にも進出し、多賀氏をしのいで実権を握りました。三木自綱は斎藤 道三の娘を迎え、信長美濃入国後は信長に近づき、天正7年（1579）松倉城を築城して本拠とし、天正10年（1582）江馬輝盛を破り、白川郷を除く飛騨を平定しました。自綱は、秀吉に対抗した佐々成政と結びましたが、天正13年（1585）秀吉の飛騨平定の命を受けた金森長近が越前大野城から兵を進め、自綱を滅ぼしました。翌天正14年、飛騨に封ぜられた金森長近は鍋山城に入り、天正16年天神山に築城を開始、松倉・鍋山城下の商人を移し、白川郷の照蓮寺と和親の誓約を結び、城下に寺地を設け、城下町の形成に着手しました。城下町は武家屋敷、町人屋敷、寺院群に区分され、武家屋敷は城下江名子川左岸、南は大 隆寺下まで、城下西麓から中橋までの宮川右岸、北麓空町一帯、江名子川北岸に及ぶあたりに 配置されていました。三代重頼の弟重勝が分家して江名子川北岸に左京屋敷を建て、重頼は娘 のために宮川左岸に向屋敷（今の高山陣屋）を建てると、そのあたりまで町家が広がりました。町人屋敷は、一番町・二番町・三番町が宮川右岸に南北に、それを東西に横切る形で安川 町・肴町がそれぞれつくられ、南

北方向に通りを発展させた町並でした。城下町によくみられる見通しがきかない道筋は、町の南部と北部に設けられました。城の北方向には白川郷から照蓮寺13代明了を迎えて、照蓮寺を建てました。その周囲に寺内町が発達して照蓮寺がこれを管轄しました。東山一帯には寺院が集められ、大雄寺・素玄寺・天照寺・宗猷寺といった金森氏にゆかりのある寺が建てられました。金森氏が出羽上ノ山に移封されるまでの金森6代107年間には、京文化および江戸文化を受け入れて、今日の高山の基盤が形成されました。幕府は元禄5年に飛騨を収公したあと、金森氏の向屋敷に代官所を設立し、関東郡代伊奈半十郎忠篤を初代の代官として兼任させ、徳川幕府直轄の天領として高山陣屋において代官・郡代が25代177年間にわたり治めました。高山陣屋に代官が常時在勤するようになったのは、享保13年(1728)長谷川忠崇からのことでした。高山城は、加賀藩主前田綱紀の家臣永井織部に守らせていましたが、元禄8年幕命により取り壊されました。「飛騨の高山御城の御番つとめかねたよ加賀の衆が」といまでも高山盆踊りの歌詞に残されています。この時代には江戸文化の影響を強く受けるとともに、その名を広く知られる高山祭が盛んとなり、屋台が造られ、市が行われるなど、社会的、文化的な基盤が確立されました。人口は元禄8年(1695)1,259軒3,757人、延享元年(1744)1,513軒7,212人、天保13年(1842)1,671軒9,237人で、これは当時の岐阜町より人口が多く、有数の都市でした。明治維新により東山道鎮撫使竹澤寛三郎が入国し、高山陣屋に天朝御用所の高札を建てました。慶応4年5月に飛騨県がおかれ、同年6月高山県となり、明治4年筑摩県に移管されるまでの3年6か月間、梅村速水、宮原積の二人の知事により治められました。明治8年に高山一之町村・二之町村・三之町村が合併して高山町となり、また、大野郡片野村ほか22か村が合併して大名田町となりました。翌明治9年に高山町は岐阜県の管下となり、明治22年に15,385人で新しい町制を実施し、大正9年の第1回国勢調査の人口は16,344人でした。その後大正15年に灘村を合併、昭和9年にはその後の高山および飛騨の発展に大きく寄与した高山本線が開通、昭和11年11月1日に大名田町を合併して市制を施行、「高山市」として発足しました。昭和18年上枝村、昭和30年大八賀村を合併しました。平成17年2月1日には、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村と合併し、日本一広大な面積を有する新しい高山市が誕生しました。現在、平成27年度からスタートした高山市第八次総合計画に基づき、「人・自然・文化がおりなす活力とやさしさのあるまち 飛騨高山」を都市像に掲げ、多様なまちの魅力や財産を活かし、あうことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちの実現を目指しています。

【高山市における歴史的風致の現状】

＊屋台祭礼の場所の歴史的風致 城下町高山の商人町区域は、春・秋祭りの祭礼氏子の範囲である。金森氏が入国してから始まった高山祭と、約300年前から曳かれるようになった高山祭屋台が生み出すこの「祭礼の場」は、伝

統を反映した高山に住む人々の上品上質の活動場所である。その区域内に「屋台組」という組織があり、各組毎に屋台がある（現存 23 台）。屋台組は江戸時代における「自治会」組織の範囲で、屋台組区域の住民を「組内（くみうち）」といい、強い団結の絆集団になっている。組内の中での町並み保存、助け合い、共同作業、交流活動などは人々の生活の中に大きな比重を占める。秋の高山祭町並み、屋台は全国屈指の有形民俗文化財、美術工芸品であり、その背景には飛騨匠の伝統がある。優れた伝統技術により作られた絢爛豪華な屋台を強く誇りに思っ て保有する屋台組と、屋台が曳かれる「祭礼の場」は、年に一度の晴れやかな空間を構成し、この空間に浸っている「組内」の人は屋台文化という歴史的風致の中に暮らす人々である。屋台は屋台組というコミュニティが持つ大きな文化遺産であり、その動く空間、場所は非常に大きな文化的空間となっている。「祭礼の場」と、屋台を曳行して祭礼を担う人々の活動とは深く一体となっていて、その歴史的風致は高山市民の誇りであり、その誇りとする心は町並み保存運動につながっている。これが「屋台祭礼の場所の歴史的風致」である。それを今後も継承し、維持するためには、屋台の保存と維持する担い手育成に力を入れる必要がある。

＊高山市における歴史的風致を取り巻く課題 高山市では、人々の活動や思いを行政が支援する形で行政と市民が協力しあい、歴史的風致が維持されてきた。しかし、全国的な少子高齢化の傾向の中で、高山市の高齢化率は 25.4%（平成 20 年 4 月現在）と全国平均の 21.9% を大きく上回っており、高齢化が進んでいる。また、重要伝統的建造物群保存地区など伝統的な建造物の残る地域や農山村地域は、現代の生活形態の中では居住環境が良好とは言いがたく、居住者減少の傾向が見られる。○歴史的な建造物の積極的な保存と活用
○居住者の減少による歴史的建造物などの維持への影響
○居住者の減少による伝統行事の維持や後継者育成への影響



【感想・岡崎市への反映】

※初めに、今回の視察について2月という寒い時期ということで、前日の

気象予報、出かける前のテレビニュース等で信越方面は大雪と聞いていましたが早めの行動をとったため、交通機関の運休等が避けられました、計画の通りに行動できましたが、私が、高山駅を出発後に高山線は全線通行止めとなりました、幸運でした。

今回の高山市の説明員の牛丸岳彦教育委員会文化財課長さんの、説明が始まってからの熱の入った説明をお聞きしていつでも思うことですが、担当者及び地域のまとまりと連携がしっかりとした絆で結ばれていると感じます。

私の住んでいる矢作東学区には、2台の市指定の文化財である山車があります、山車保存会の皆さんのご努力で何とか維持をしていただいておりますが、高額な維持費がかかり非情に維持管理をしていくには大変であります、高山市さんに、山車の維持管理をどのようにしておられるか、大変興味がありましたが、高山市市民の皆さんの熱意・努力にお話を伺えば伺うほど、ただただ敬服をいたしました、補助金等が約15科目もあり多額の補助金をいただいておりますようですがまだまだ足りないようです、本市においても、国・県・観光協会及び市内外の企業様等のお力を借りて、ぜひとも本市の重要文化財を守っていけたと思います、大規模修繕においては、クラウドファンディング等も活用が出来ればと思います。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和7年2月5日（水曜日）
視 察 内 容	鳥獣被害対策とジビエ加工センターについて（長野県 長野市）
視 察 者	田口正夫

長野市は、北アルプスに源を発する犀川の扇状地と千曲川の沖積地によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、平安の昔から「三国一の霊場」善光寺の門前町として全国に親しまれたきた。

明治22年廃藩置県により、長野県の管轄となり、県庁が置かれた、明治9年8月筑摩県が廃され中南信地域が長野県に合併されることになり長野市は長野県の県都として発足することとなり、地方行政の中心的役割を果たし、地方の政治都市の色彩を濃くした。

昭和41年10月、長野市、篠ノ井市、松代町、若穂町、川中島町、更北村、七代会村及び信更村の2市3町3か村の大合併により、面積404平方キロメートル、人口27万の都市となった。

こうした都市の拡大・発展の中で平成8年9月に人口36万を超え、平成9年4月1日には明治30年の市制施行以来100周年を迎えた、100周年記念事業として第18回オリンピック冬季競技大会（平成10年2月）、第7回パラリンピック冬季競技大会（平成10年3月）が開催された、オリンピック等の開催により、長く市民の願いであった新幹線・高速道も実現し、市内の都市基盤整備も急速に進んだ、また、平成11年4月1日、政令指定都市に準じた権限を持つ中核市に移行したことにより、これまで以上に、市民に身近な行政をスピーディに処理できることになった。

平成17年1月に豊野町、戸隠村、鬼無里村及び大岡村を、平成22年1月には信州新町、中条村を編入合併し、新しい長野市がスタートした。明治30年市制施行当時の面積9平方キロメートル、人口3万足らずの小都市に過ぎなかった長野市も、面積835平方キロメートル、人口39万弱の都市となった。

<施設の設置目的等>

農作物に被害を及ぼし有害鳥獣として捕獲されたイノシシとニホンシカは、加工処理施設ができる前は地下に埋設処理等がされていた。それらの個体を新たな地域資源“ジビエ”として無駄なく有効活用して農業被害及び捕獲者の労力の軽減につなげ、かつ、中山間地域の活性化を図るために平成31年2月に長野市中条地区にジビエ加工センターを整備し、同年4月から運営



を開始した。

＜ジビエ販売までの歩み＞

- ・平成 28 年 11 月 長野市ジビエ振興計画策定
- ・平成 30 年 3 月 農林水産省がジビエ利用モデル地区に選定
- ・平成 30 年 7 月 ジビエ加工センター工事着手（平成 29 年 2 月建設地長野市中条地区に決定）
- ・平成 31 年 2 月 ジビエ加工センター竣工（平成 31 年 3 月 28 日竣工式）
- ・平成 31 年 4 月 ジビエ加工センター稼働（6 月まで試験稼働、7 月から本格稼働）
- ・令和元年 8 月 22 日「国産ジビエ認証」及び「信州産シカ肉処理施設認証」を取得
- ・令和元年 10 月から主に事業者向けに本格販売を開始（ペットフード用）は令和元年 7 月から

＜施設設備等の概要＞

- ・施設構造：鉄骨造平屋建（約 330 m²）
- ・総事業費：約 3 億 5,400 万円（内、国交付金：1 億 2 千万円）
- ・主な施設設備：解体室、熟成室、処理室、冷凍室
（スライサー、ミンチ、真空パック金属探知機、放射能濃度測定システム、電解水生成装置、商品管理システム完備）
- ・施設運営体制：長野市直営（現在、職員 8 名体制）
- ・施設の特長
 - ＊衛生管理の充実（国産ジビエの認証及び信州産シカ肉処理施設認証取得）
 - ＊商品管理システムによりトレーサビリティの確保

＜捕獲等の取組内容＞

長野市 22 の地区有害鳥獣対策協議（委員）会、長野県漁業協同組合連合会及び長野森林組合が有害鳥獣捕獲許可を受け、その従事者が捕獲を実施、鳥獣被害対策実施隊により、くくりわな・箱わな及び銃器を使用して、被害発生地域において捕獲を実施。

なお、ツキノワグマの捕獲は原則としてドラム缶 により実施する。

＜ジビエ普及促進の主な取り組み＞

- ＊捕獲従事者の労力軽減につながる取り組み。
- ＊学校給食でのジビエ提供による普及促進
- ＊スペシャルジビエプロジェクト「ながのジビエ普及促進事業」の実施。



【感想・岡崎市への反映】

※ジビエの普及には関係機関の理解が必要である、消費先には、学校給食等にも利用できるよう、積極的に行っていくことも考え、安全で安心できる食の提供確保、本市においても、鳥獣被害の軽減を図るためには、県・市・猟友会・JA・民間協力者等と、被害防止対策有害獣肉の有効活用ができるよう打ち合わせを綿密に行い、市及び民間でジビエセンター等を作った場合運営・利用できるのか検討をすることが必要と思う。

なお、捕獲従事者の負担軽減のために、関係機関が積極的に、増員できる体制を整えることが必要不可欠である。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和7年2月6日（木曜日）
視 察 内 容	小松運動公園について（石川県 小松市）
視 察 者	田口正夫

小松市の概況

小松市は、石川県の西南部、加賀平野のほぼ中央部に位置し、東は霊峰白山を望み、西は日本海に面し、風光明媚で豊かな自然に恵まれた環境を有しています、面積は371平方キロ、人口は10万6千人で、南加賀の中心都市として発展している。



小松という地名の起こりは、花山法皇（天皇在位984～986年）が北陸へ巡幸の折、川のほとりに館を建て、花園をつくり松を植えたことから「園の小松原」と呼ばれ、いつしか小松になったといわれている、寛永16年（西暦1639年）、加賀百万石の三代藩主前田利常公が隠居して、金沢から小松に移り、城を大修理、街の整備をすすめ、寺社の造営から産業や文化を興し、市街地の原型を作った、明治22年、町村制施行で「旧小松町」ができ、昭和15年12月1日には、小松町を中心とした近隣8町村が合併、全国で176番目の市が誕生。昭和30年4月には、周辺の4村、昭和31年9月に5村をそれぞれ合併し、今日に至る。

<地域産業>

弥生時代の碧玉（へきぎょく）の玉造を始まりとして、江戸時代には、前田利常公の殖産興業政策によって城下に職人たちが集まり、「ものづくり」をなりわいとして繁盛してきた歴史がある。現在では、世界的な建設機械メーカーが生まれ、その協力企業等によって機械産業を中心とした産業クラスターが計施され、さらには高度な産業集積と技術力を活かし、日本一のシェアを誇るパーティションメーカー、世界的な電子部品メーカー、日本有数のバス製造メーカーやそれらの関連企業が立地するなど、多様な産業集積が進んでいる。

<交通・運輸>

- ・小松空港は、昭和36年12月に航空法に基づき公共用施設の指定がなされて以来、自衛隊と民間航空との共用空港として発展を続け、日本海側の重要な拠点空港としての役割を果たしている。
- ・市内にはJR駅として小松駅、粟津駅、明峰えきの3つの駅がある、令和6年3月16日に北陸新幹線小松駅が開業した。また北陸自動車道の小松イ

ンターチェンジ、安宅スマートインターチェンジが設置されている。

小松運動公園

小松市街にスポーツ施設6個（体育館、野球場、テニスコート、相撲場、屋外幼児プール）を備えた運動公園、市民対象の各種スポーツ大会及びプロスポーツのイベント、年間を通して開催され市民のスポーツのメッカとなっている他公園内には芝生等緑豊かな多目的広場があり市民の憩いの場となっている、特徴として各施設にはそれぞれ相性が付けられ利用者に親しまれている。

・末広体育館（義経アリーナ）

昭和38年に建設された円形の体育館、小松市バスケットボール競技のメッカでBリーグも開催、小松市スポーツ賞受賞者の賞状が展示され、小松市スポーツの歴史がわかる、お年寄りのウォーキングや中学校、高校生の部活など毎日多くの利用がある。

・末広陸上競技場（勸進帳スタジアム）

第2種の陸上競技場、小松市内の中学校、高校の部活動で毎日活気にあふれている。

・末広野球場（弁慶スタジアム）

弁慶スタジアムの愛称で親しまれる、晴れた日には、霊峰白山を望むことのできる雄大で綺麗な球場である、安心・安全で気持ちよく「全力プレー」が出来るよう、日々、丁寧に整備されており、また、両翼には人工芝の室内練習場完備完備され、雨天時や冬場の練習・フットサル等に利用できる。

・小松屋内水泳プール

小松運動公園内にある、25m プール・幼児プール・ジャグジー・50m プール（屋外）・飛び込みプール（屋内外）のプールがあり、季節・天候に左右されず一年を通して子ども（2歳以上のオムツのとれた幼児）から大人まで楽しめるプール、屋外プールは7月1日から8月31日まで利用可。令和4年4月1日にリニューアルオープン、全館LED照明になり施設全体が明るくなった、他にも、空調設備も新しくなり、快適に過ごせるようになった。

・末広屋外水泳プール

小松市内のクラブチームの活動、一般市民の健康増進で活気に溢れている。

・末広屋外幼児プール

夏季限定の幼児向けプール、6月20日から9月8日の間、午前9時から午後5時まで開館。

・S・フォーティーンコート（末広テニスコート）

コート数が14面あり全コートナイター照明設備完備、午前中はシニア、夕方からは中学校、高校生の部活動で毎日使用。



【感想・岡崎市への反映】

- ・今回視察をさせていただいた小松市は、運動公園、小松ドームを始め多くの施設がある市であります、義経、弁慶で有名な勧進帳、安宅関、歴史的に有名である、その有名な名前を付ける、一つのアイデアであり、市民に親しみのある名前を付けることにより、より親しみのある施設にして行こうという市の取り組みがよくわかる、説明者の方に直接生の声を聴くことで、力の入れ具合、熱い心が伝わってくる、本市も体育館等に、家康体育館、竹千代ホール等及び四天王の名前を付けて多くの市民を始め市内外にアピールできるように、考えてはどうか。

今回の視察は、大雪・強風等で思うようには行動が出来ず大変苦勞をしましたが、自然環境と闘いながら全力で地域の活性化のために努力する、職員の皆さんの熱い思いが直接心に触れて充実した視察が出来ました。

尚、視察終了後、副議長様自らＪＲ小松駅まで送っていただきました。